

令和5年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
研究成果等概要報告書

研究テーマ名	外部環境の変動が農水産業の生産性へ及ぼす影響の検証と改善方法に関する研究
政策研連携研究課題名	農水産業の生産性の評価・検討に関する研究
研究実施期間（西暦）	2023年度 ～ 2025年度（3年間）
PO	村上 智明

1 研究の進捗状況等

酪農・畑作・水産業の生産性の検証を行うことが本研究の主目的であるが、酪農・水産業については生産性分析の試算を行うことができた。農業については生産費調査の個票取得及び農協からの圃場レベルデータの取得までは進められており、当初予定よりも順調に進んでいると言える。水産業の諸課題についても現地調査を順調に進めており、研究成果の報告を行うことができている。

① 酪農の生産性

プロジェクト開始以前に入手した酪農経営の個票データの整理を行い、確率的フロンティア分析及び包絡分析（DEA）による生産効率の試算を行った。ブートストラップ DEA を中心にした現時点の計算結果では生産効率性は生産額の上昇に従って緩やかに上昇しているが、生産額 6000 万円以下の小規模層でも平均効率性は0.8弱と低くないことや搾乳ロボットを導入によって現時点では平均効率性に有意な差が無いことなどが明らかとなっている。

② 農業の生産性

小麦・大豆・馬鈴薯・甜菜・サトウキビ・甘藷について生産費調査の個票利用申請を行い、完了しているため年度末までに届いたデータの整理を行う。北海道畑作についてはオホーツク管内で農協の協力によって畑作の圃場レベルの産出データを入手することができた。産出データについてはホットスポット分析等の空間統計解析を行っており、これらを元に投入データの取得に向けた準備を進めている。

③ 水産業の生産性

大臣許可漁業の生産性分析のために漁獲成績報告書の個票データについて、日本海側西部を対象を絞って取得の準備を進めている。漁業経営統計調査の個票データの利用申請を行い、取得した。これを元に包絡分析を行い、2007～2015年度まで9年分の生産効率性の変化について試算を行った。ここまでの結果では、水産業全体で徐々に生産性は向上していること、水産における非効率性の要因は規模効率性が中心であることなどの結果が得られている。

④ 水産業の諸課題

ホタテガイに関し、輸出動向と国際情勢の変化の関係を分析した。また、国内生産体制の強化に資する水産加工業者等の実態調査を実施した。さらに、遊漁船情報の資源管理への活用に関する検討を実施した。加えて、漁業現場における外国人労働力の要望と可能性について関連団体等の調査を実施した。

2 成果公表

発表者	表題	発表場所・発表誌等	発表年月
高橋祐一郎	近年のホタテガイの輸出動向及び輸出動向を見据えた国内生産体制のあり方に関する考察	農林水産政策研究所 定例研究会	2023年4月
若松宏樹・丸山優樹	持続可能な漁業管理に対する日本の消費者の補償受容額：仮想評価法による分析	国際漁業学会	2023年8月
高橋祐一郎	日本産ホタテガイの中国における需要に関する考察	日本水産学会 2023 年秋季大会	2023年9月
若松宏樹・丸山優樹	「持続可能な漁業管理」は日本で付加価値となり得るか？メバチマグロを例に	農林水産政策研究所 レビュー	2023年11月
高橋祐一郎	近年のホタテガイの輸出動向及び輸出動向を見据えた国内生産体制のあり方に関する考察（その2）	農林水産政策研究所 定例研究会	2024年1月
高橋祐一郎	激変する日本産ホタテガイの輸出	月刊養殖ビジネス 2024年2月号	2024年2月

3 研究会の開催

- 令和5年5月19日 最新の水産経済研究の動向に関する勉強会（所内研究会）
- 令和6年1月11日 遊漁の社会的価値（所内研究会）
- 令和6年1月25日 日本産ホタテガイをめぐる事情（省内ミニ報告会）

（注1）全研究期間をとおしての研究全体の進捗状況を5行程度で簡潔に記載し、当該年度に研究を実施した研究項目ごとの進捗状況を3～5行程度で簡潔に記載すること。

（注2）学会発表、論文発表等成果の公表状況（リスト）を添付すること。

（注3）農林水産政策研究所のホームページで公表するため、未公表データや知的財産等に関する事項については、十分に注意して作成すること。また、公表できる内容のみを記載すること。